



「司馬遼太郎記念室」の官兵衛コーナー。『播磨灘物語』連載時の原稿や西山英雄氏の挿絵も。「司馬さんの家系が祖父の代まで播州で、実はご先祖が官兵衛とは敵方だったというのも興味深い」と玉田さん。

## 姫路文学館 | ひめじぶんがくかん

姫路を中心に播磨ゆかりの文人の作品、遺品を展示。「播磨灘物語展」を機に「司馬遼太郎記念室」が完成した。代表作を貴重な資料や生前の映像とともに紹介。

▷姫路市山野井町84 ☎079-293-8228  
午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 月曜(祝日の場合翌日)休、12/25～1/5休 常設展観覧料=300円(大・高生200円、中・小生100円) ©60台 道案内/電車→JR神戸線・山陽電車姫路駅から神姫バス、市之橋・文学館前下車徒歩約3分 車→姫路バイパス中地ランプから県道415号線を経て北東へ約15分

## 官兵衛を知るために...

おすすめはコレ!



『新装版 播磨灘物語1~4』  
司馬遼太郎 作  
講談社文庫 各660円(税込)  
昭和48年より新聞連載。官兵衛の青春期から中国大返しまでの活躍を主に、人物像を巧みに描いた物語に心躍る。播州の地名が登場。



『風渡る』  
葉室麟 作  
講談社文庫 710円(税込)  
キリタンだった官兵衛と、日本人修道士ジョアンとの交流を描き、戦国乱世を宗教の視点から切り取る。続編『風の王国』も。



『軍師の門 上・下』  
火坂雅志 作  
角川文庫 各740円(税込)  
2人の軍師、竹中半兵衛と官兵衛の師弟関係と友情を軸に展開。大河ドラマ『天地人』原作者によるストーリーは読み応え十分。



『官兵衛さんの大きな夢』  
柳谷郁子 文/本山一城 絵  
神戸新聞総合出版センター 1,365円(税込)  
官兵衛の生き様を綴った絵本。戦国版図や武将たちの描き込みが興味深い。絵は黒田家の子孫という漫画家・歴史研究家の本山一城氏。家族で読みたい1冊。

生涯、信義を重んじ、智力で敵を落とすことを得意とした戦国武将の黒田官兵衛。姫路城主の嫡子として生まれ、青年期から智将の才覚があり、22歳で御着城・小寺家の家老に。織田信長が羽柴秀吉に中国地方への毛利攻めを命じた際、播州の多くの大名が大国の毛利に従おうとする中、「信

## 大河ドラマまであと1年。魅力と足跡をぜひ予習!

長こそ新時代の天下人」と見抜いたのは官兵衛だった。やがて秀吉のもとで三木合戦などの播州平定、中国・四国・九州征伐で次々に智謀を發揮。その才能を恐れた秀吉に、「自分の次

愛すべきヒーローなのだ。となると、2014年の大河ドラマが待ち遠しい限り。その前に関連する本をたっぷり読んで、知識を深めておきたい。「姫路文学館」学芸員の玉田

に天下をとる男」とまで言われた。九州に移り、息子に家督を譲ってからは黒田如水と名を改め、59歳で生涯を終える。戦国乱世をしたたかに生き抜いた官兵衛こそ、播磨が生んだ

克宏さんにお薦めを聞くと、「吉川英治、坂口安吾、松本清張など多くの作家が描いていますが、官兵衛の名を世に出したのは司馬遼太郎の『播磨灘物語』。己の欲や野心とは無縁で、冷静に時代を読む合理的感覚に優れた人物に心ひかれたでしょう。そのほか、キリスト教信者としての側面に焦点をあてた葉室麟『風渡る』、秀吉のもう1人の軍師・竹中半兵衛によって官兵衛が成長する火坂雅志『軍師の門』もおすすめ。物語を読み、作家たちの創作意欲をかき立てる、官兵衛の多彩な魅力に浸りたい。」



姫路城主だった黒田家。姫路城は当時、小寺氏の御着城の出城で、「白鷺城」と呼ばれる今の姿になったのは江戸時代。2015年春まで大天守の保存修理工事中。一部見学可。



# 黒田官兵衛

大河で見たい  
兵庫の偉人伝。

兵庫を舞台に活躍した、有名な武将や文化人。その波瀾万丈な人生は、「大河ドラマで見たい!」と思わせるほど魅力的。まずは、2014年の大河ドラマに決定した、姫路生まれの戦国武将黒田官兵衛のゆかりの地を訪ねて。年の始まり、生きるヒントとしたい偉人に思いを馳せよう。

## 兵庫での活躍は...

- 1546 姫路城で誕生。父の戦隆(もとたか)は御着城(姫路市)の家老
- 1562 初陣を飾る。元服後は官兵衛孝高(よしたか)と名乗る
- 1567 志方城(加古川市)主・櫛橋氏の娘(光姫)を妻にし、家督を継ぐ
- 1575 主君の小寺政職(まさもと)を説得し織田信長への帰属を決める
- 1577 羽柴秀吉の播州攻略に協力し、姫路城を譲って佐用城や上月城(ともに佐用町)を攻略する
- 1578 三木城(三木市)攻略の作戦を練る。信長に背いた有岡城(伊丹市)主・荒木村重の説得に赴き幽閉される
- 1579 有岡城が落城し救出される
- 1580 妻鹿城(姫路市)ののちに、山崎城(宍粟市)に移る

※く 内は現在の市町名



## ←ここで見られます。 姫路市観光案内所

▷姫路市駅前町210-2  
姫路駅中央コンコース西側  
☎079-287-0003  
午前9時～午後7時 無休、12/29・30休  
◎なし



この兜も愛用しました。

官兵衛のトレードマークといえば、敵将から「如水の赤合子」と恐れられた合子形兜(ごうすなりかぶと)。戦国時代に流行した変り兜のひとつで、妻・光(てる)の父から婚約の祝いとして贈られたものとか。複製が見られる。

正面! →



# 官兵衛のホームタウン 姫路へ!

# 黒田家が栄えたひみつが?

盛り上がりがあります!



## 廣峯神社 | ひろみねじんじや

遺唐使の吉備真備が神のお告げを受け、社殿を建立。真備が唐で学んだ陰陽道を広めたいと考え、田植え時期や建築の方位方角などを定めるのに欠かせない暦を司る祭神として、広く信仰を集めた。4月3日御田植祭、11月15日御柱神祭が有名。



「素戔鳴尊(すさのおのみこと)が現在の奥の院の白幣(はくへい)山に鎮座したのが始まり」と幸田宮司。室町中期の本殿、江戸期に修復された拝殿は国指定重要文化財。本殿裏の9つの穴は九星を表し、穴に賽銭と願い札を入れて願い事をすると叶うとか。



▷姫路市広嶺山52 ☎079-288-4777  
参拝自由 ◎50台 道案内/電車→JR神戸線・山陽電車姫路駅から神姫バス、広峰下車徒歩約40分 車→播但連絡道砥堀ランプから西へ約10分



かつては神社敷地に34軒あった御師屋敷。「御師は神社と信徒のパイプ役。貴重な神札も残っています」と屋敷を守る魚住壽太郎さん。見学は不可。

# 広峰山

「廣峯神社」の表門に立つと、眼下には姫路城、はるか南には播州平野、瀬戸内海を一望できる。官兵衛もこの絶景を眺めただろう。姫路と黒田家のかかわりは、官兵衛の祖父の頃から。祖父・重隆と父・職隆が広峰山に登り、神社との出会いが運命を変えたという。宮司の幸田精久さんによると、「廣峯神社には、神社に仕える御師が各地の信徒に御札を配り歩く(御師組織)がありました。その札と一緒に売って黒田家の財を成したと伝わるのが、家伝の目録。御師のエリアは丹波、但馬、因幡、美作など広く、官兵衛は彼らを通じて各地の情報を得ていたのでは。」

その成功から黒田家は御着城主・小寺氏に見込まれて家臣に。御着城は、姫路城から東へ約4km。御着史跡保存会が約50年前からのゆかりの地を守り、井上会長は「戦国時代、御着城は播磨の美しい城として評判でした。父の職隆に従って、官兵衛も萬吉と呼ばれた幼い頃から出入りし、馬や弓の鍛錬をしたでしょう」と話す。想像しながら巡ってみたい。



右は、本丸跡の東・家老屋敷跡に佇む黒田家廟所。官兵衛の祖父の重隆と、母の明石氏(いわ)が眠る。左は国道2号線を南へ渡った場所にある小寺家三代の城主を祀る小寺大明神。毎年4月29日に法要祭典が行われる。



# 御着 官兵衛の主君のまち

いんぎょを探して



黒田家は玲珠膏(れいしゅこう)という名の目薬で財を成したと言われることから、(めぐすりの木)がゆかりの各地に植えられている。廣峯神社の表門階段下、御着城跡公園、妻鹿城跡、官兵衛の初陣の地という青山古戦場跡で見つけて!



御着史跡保存会の井上稔陸会長(左)、井内義延副会長。ともに御着出身。「黒田家と縁の深い御着の魅力を伝えたい」と官兵衛への愛が伝わる。ガイドの問い合わせ ☎090-9046-2442(御着史跡保存会・井内)午前9時~午後5時 ※日時は要相談



## 御着城跡公園

ごちゃくじょうせきこうえん

本丸跡に立つお城のような建物は「姫路市東出張所」。御着城を復元して昭和52年10月に完成。前に広がる城跡公園には官兵衛の顕彰碑もあり、本丸跡は国道2号線で分断されているが南北214m、東西227mの広さがあったとか。その東側に二の丸、西側には家老屋敷。西から南へ流れる天川を外濠に城下町をイメージしたい。

▷姫路市御園野町御着 見学自由 ◎10台 道案内/電車→JR神戸線御着駅から北東へ徒歩約5分 車→姫路バイパス姫路東ランプから国道312号線を北東へ約5分

## 妻鹿にも城跡が...

播州攻略にやってきた秀吉のために、「戦の拠点に」と居城の姫路城を譲り渡した官兵衛が、移り住んだという妻鹿(めが)城。小さな山城で、別名国府山(こうやま)城。近くの住宅街の中には、この城で亡くなったとされる父・職隆が眠る場所がある。今でも慕う人が多いそう。



道案内/電車→山陽電車妻鹿駅から北東へ徒歩 車→姫路バイパス市川ランプから南へ約10分

## 姫路の立ち寄り

### グリル テンペイ

姫路城のすぐお膝元。三宮の[グリル末松]出身のシェフ・関良祐さんがオープンした洋食店は、「孫の誕生日に3世代で楽しめる洋食がモットー」。人気のハンバーグステーキはフライパンとオーブンで2度焼きして肉汁たっぷり。3日かけてつくるデミソースも濃厚!

▷姫路市本町68-170 ☎079-280-4697  
午前11時30分~午後2時、午後5時~午後8時30分 火・第3水曜休、12/31~1/1休 ◎なし 道案内/電車→JR神戸線・山陽電車姫路駅から北へ徒歩約15分 車→姫路バイパス中地ランプから県道62号線を経て北東へ約5分 ※地図はP1参照



鹿児島産豚との合挽きミンチを使うハンバーグステーキ1365円。付け合わせの野菜やスープまで技術と心遣いが光る。





「三木でお殿さまといえば、やっぱり長治公」と三木市観光振興課の辻田政顕さん(左)。「落城後の町を復興した秀吉公も敬われています」と廣井さん。

### 三木城址(上の丸公園)

みきじょうし うえのまるこうえん

東播磨一の堅牢さを誇った三木城。高台にある本丸跡が眺めもよい公園に。さらに小高くなった天守台跡には、最後の城主・別所長治公辞世の歌碑が。長治公の騎馬像、抜け穴伝説もある井戸跡などが見られる。

▷三木市上の丸町  
☎0794-82-2514  
(三木市観光振興課)  
見学自由 ©20台(図書館)

毎年5月5日は「別所公春まつり」でにぎわい、三木の大意人を忍ぶ。近くの「雲龍寺」には長治夫妻の首塚が。



「織田に付くか、毛利か」と東西に揺れ動いた播州の大名たち。その説得に官兵衛は苦心し、奔走したというが、別所氏の三木城は秀吉軍に攻められ、1年10カ月も食糧補給を断たれて落城した。「別所長治は23歳の若し城主でしたが、城兵たちを助けるため自害を選びます。民のために命をかけてくれたお殿さまとして、今も敬愛されています」と廣井さん。



## 播州の激戦地 三木

「三木市教育委員会の廣井愛邦さん。地元有志が建てた長治公騎馬像が、本丸跡の「上の丸公園」に雄々しく立つ。

[三木城址]には三木合戦の情景を伝える絵巻看板を設置。別所軍は三木城に籠城して果敢に戦ったが、「三木の干殺(ほしころし)」と呼ばれる兵糧(ひょうろう)攻めに合う。



半兵衛みそ1kg800円。黒い粒は昆布を刻んだもの。みそ汁やご飯のおかずにも。

**三木みらい館** みきみらいかん  
半兵衛の墓がある平井山の麓近くで、[平井山観光ぶどう園]のお母さんたちが手づくりするみそ。地元産大豆、米、赤穂の天然塩に地酒や昆布のkokoro。まるやかな味わいにリピーター多し。

▷三木市緑が丘町西4-48  
☎0794-87-8077  
午前10時～午後5時 水曜日、12/31～1/5休 ©80台 道案内/電車→神戸電鉄栗生線広野ゴルフ場前下車

**道の駅みさ・みさ家** みちのえきみさ・みさや  
金物の町・三木の郷土食といえば鍛冶屋鍋。夏場の職人のスタミナ食だ。それにちなんだ鍛冶屋ラーメンは、特注の鉄鍋で煮込んだスープと太麺、甘辛く煮たタコ、ナスの天ぷらがマッチ。

▷三木市福井2426 ☎0794-86-1131(店舗直通) 午前8時～午後8時(12/31は午後7時まで、1/1は午前10時から) 無休 ©200台  
鍛冶屋ラーメン680円。鍛冶屋カレーなど郷土色豊かなメニューが続々。



北西隅の土塁石垣。櫓の基礎だったと推定。近くに石切場がなく、貴重な石を補うべく四角い墓石が多用されているのが興味深い。



**有岡城跡** ありおがじょうせき  
有岡城の名は荒木村重が城主だった6年間(1574～1579)のみ。そのほかはずっと伊丹城。昭和50年から350回以上の発掘調査を重ね、堀、土塁石垣、井戸、庭園、礎石建物などを発見。昭和54年に国指定史跡に。復元された井戸は本来1m地下にあったもの。今は緑が豊かで、市民のちょっとした憩いの場に。

▷伊丹市伊丹1-2丁目  
☎072-784-8090(伊丹市教育委員会社会教育課、土・日・祝休) 見学自由 ©なし



伊丹への道案内  
電車→JR福知山線伊丹駅 阪急伊丹線伊丹駅から徒歩 車→中国自動車道中国池田ICから国道171号線→県道13号線を経て南西へ約5分

## 官兵衛幽閉のナゾ 伊丹

反乱を起こした武将・荒木村重を説得しに行った官兵衛が、幽閉されてしまった有岡城。1年近くも耐え抜いた官兵衛が、有岡城落城とともに救出される話は、大河ドラマでも重要な場面となるはず! 城の面影が漂うのは、JR伊丹駅に近い史跡公園。鉄道開通などで大部分が開発されたが、主郭の一部が残る。「もとは東西800m、



「村重は豪快な武将のイメージですが、茶人として千利休とも親交が深かった。秋はここで野点(のたて)を行います」と中野さん。

### 町を歩けば...

大溝筋の復元。かつては幅6m、深さ3mもの箱堀だった。江戸時代に堀を埋め、石組の排水溝=大溝筋に。



### 伊丹の立ち寄り

### サンブレッド 伊丹店



焼きたてのパンの香りに誘われる町の人気ベーカリー。伊丹市とのコラボで誕生した「村重抹茶」140円は、荒木村重の妻の名「たし」にちなんで、だし昆布を生地にトッピング! 茶道にも通じていた村重にちなんだ風味豊かな抹茶あん、白玉のもちもち感が魅力。

▷伊丹市伊丹2-2-12-3 ☎072-777-5882 午前8時～午後8時 第3火曜日、1/1～4休 ©なし

### 豆腐庵さらら | とうふあんさらら



「ヘルシーでおいしい」を掲げ、湯葉や豆腐を主役にしたランチが評判。湯葉や豆腐は厳選した国産大豆を石臼で挽き、薪で炊くこだわり派。湯葉づくしさらら膳1,500円は、生湯葉で包んだ具入りご飯のあんかけ丼、生湯葉かきあげ、豆乳アイスなどがセットで。

▷伊丹市伊丹1-8-22-1 ☎072-775-3636 午前11時～午後8時(カフェは午後6時まで) 無休、1/1～4休 ©なし



三木への道案内 電車→神戸電鉄栗生線三木駅-三木上の丸駅下車 車→山陽自動車道三木小野ICから南東へ

江川ふれあいホール



〈陰陽師の里〉を訪れるなら、ぜひ1日か15日に! 月2回開かれる〈ふれあいカフェ・ほっとえかわ〉で、季節のおやつとコーヒーでホッとひと息できる。おやつはどら焼き、三色おはぎ、時には名物のしょう油饅頭(道饅頭)など、地元主婦が手づくりする優しい味を。

▷佐用郡佐用町豊福204-1  
☎0790-84-0540(岡野)  
カフェは1・15日の午後1時～午後4時 1/1休 @10台

コーヒー、紅茶、ジュースが各150円でおやつ付き。お土産には晴明の五芒星、道満の九字の印が付いたパワーストラップ各300円を!

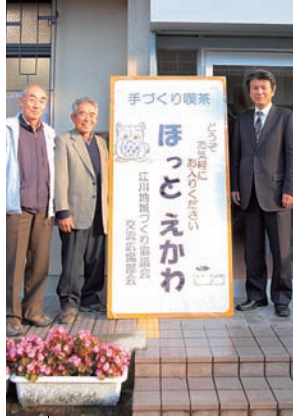
味扇 あじせん



ホルモン500円、うどん1玉120円。「ホルモン多め」「うどんたっぷり」など好みを伝え、注文。母娘2代で受け継がれるコク深い味を。

うどんにホルモンの旨みを絡めた佐用町の名物・ホルモンうどん。つけダレで食べるのが特徴とあって、各店が工夫した秘伝のだしやタレの味わいが楽しみだ。[味扇]ではカツオ、北海道産昆布、イリコ、シイタケでだしを取ったしょう油ダレ、3日間かけてつくる濃厚なみそダレの2種の付けダレで。

▷佐用郡佐用町横坂318-1  
☎0790-82-2089  
午前11時～午後2時、午後4時30分～午後10時 火曜休、12/31～1/2休 @11台



佐用町まちづくり企画室の久保さん(右)、江川地域づくり協議会センター長の木村政照さん(左)、会長の岡野俊昭さん。「素晴らしい遺産と伝説を守ってきたい」。

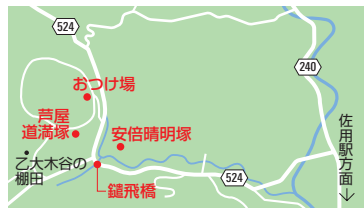
平安時代の宮廷陰陽師・安倍晴明と、民間最強の陰陽師・芦屋道満。映画や小説でおなじみのライバル同士が、最後の呪術合戦に挑んだと伝わる陰陽師の里が、佐用町江川にある。陰陽師といえば京の都の印象だが、なぜのどかな里山に...? 「まちづくり企画室」の久保正彦さんによれば、「道満は実は

加古川の生まれ。京都で藤原道長を呪った罪から、流された江川で亡くなったと伝わっています」と播州にかかわりが深い人物。深い谷を挟んで東西の丘の上に、今も並び立つように晴明塚・道満塚の2つの塚が残る。「晴明はヒーロー、道満はおどろおどろしい悪役のイメージですが、道満は当時20歳の若者で、晴明が36歳も年上だったなど、知られていないことも多い。道満は漢方に秀で、子孫が江川で薬師になったとも言います」。市井の陰陽師ながら立派な塚に祀られていることこそ、道満の偉大さを示す何よりの証拠、かもしれない。

スピリチュアルがいっぱい! →



塚の周りには、決戦ゆかりの場所が各所に。谷間を流れる植木谷川には、矢が飛び交ったという[鐘飛(やりとび)橋]が(写真左)。晴明が道満を討ち取り、その首を小川で洗ったという[おつけ場]も残る(右)。[安倍晴明塚(晴明塚宝篋印塔)]は甲大木谷集落に(中)。[どちらの塚も立派で甲乙つけがたいことから、地名になったのでしょうか]と久保さん。住民がみんなで描いた、陰陽師の看板が町の各所に!



佐用町への道案内  
電車→智頭急行平福駅からタクシー 車→中国自動車道佐用ICから県道240号線を経て北西へ約10分



江川地区では、道満は藤原道長の私利私欲をいさめるため呪い、ここに流されたと伝わる。今はのどかな風景の中、荘厳な塚が残る。

二天陰陽師が決戦!  
道満・晴明の  
佐用町へ

芦屋道満塚 あしやどうまんづか

標高243mの丘の上から、江川の里山を見下ろす(道満塚宝篋印塔)。梵字を刻んだ重厚な塔が、墳墓や石の上に立つ5段構造。眼前には「日本の棚田百選」に選ばれた(乙大木谷の棚田)が広がり、眺めは抜群! 谷を挟んだ東側の約1km先には、晴明塚が立つ。毎月8月上旬には、平安衣装を着た行列が2つの塚を結ぶ道を歩く「陰陽師七夕祭り」が華やかに行われる。

▷佐用郡佐用町乙大木谷  
☎0790-82-0670(佐用町商工観光課)  
参拝自由 @なし



道満塚へ丘を登る道は、東から西へ、ぐるりと塚を囲むように付けられている。「陰陽師の強い力を、封じ込める意味があるのかも」と久保さん。晴明塚は南を、道満塚は西を向いて立つのはなぜ?...などナンがいろいろ!

## ぼるどー亭

近隣の契約農家から直接仕入れる野菜や、尼崎の生じょう油など地元の素材にこだわる創業35年の老舗レストラン。(近松ものがたり)は、和のエッセンスを取り入れた創作フレンチ。懐石料理のように四季を感じる端整につくり込まれた料理に、リピーターも多い。

▷尼崎市南武庫之荘1-3-21  
☎06-6437-2981  
午前11時～午後2時、午後6時～午後9時  
月曜(祝日の場合翌日)・奇数月の第3火曜  
休、12/30～1/2休 @なし 道案内/電車  
→阪急神戸線武庫之荘駅から徒歩5分 車  
→名神高速道路尼崎ICから北西へ約5分



ランチの近松ものがたり2,940円。メインは肉or魚料理が選べる。写真はフランス産仔鴨のロースト、ノルウェーサーモンのミキチュイ。サツマイモや小松菜などを使った自家製スイーツにも注目!

## 宮島庵 杭瀬店

みやじまあん くいせてん



店主の宮島義彦さんが「近松が生きていた時代の豆腐」をイメージ。近松豆腐220円。

50年以上地元で愛される豆腐店。安全なおいしさにこだわり、国産の有機栽培大豆と伊豆大島産の天然がりのみを使用した「近松豆腐」は、全国にファンを持つ看板商品。尼崎の逸品を選ぶ「メイドインアマガサキ」でグランプリを獲得し、尼崎土産として人気に。

▷尼崎市杭瀬本町1-18-13  
☎06-6481-2673  
午前7時～午後7時 木曜休、1/1～4休 @なし 道案内/電車→阪神本線杭瀬駅から徒歩約4分 車→阪神高速神戸線尼崎東出口から県道339号線～国道2号線を経て北東へ約10分



## 松葉寿司 | まつばずし

昭和13年創業。特大の「近松巻き」は直径10cm! 「近松ゆかりの地のお土産になる、特徴ある寿司を」と2代目岡本社長が15年前に考案。福井産コシヒカリのシャリに、厚焼き卵、ウナギ、エビ、シイタケなど具がぎっしり。満足度大のごちそう寿司なのだ。



近松巻き1本2,100円。6つに切り分けると厚さ3cmほどで見た目も豪華。持ち帰り可。

▷尼崎市塚口町1-13-10  
☎06-6422-1234  
午前10時～午後10時(日曜、祝日は午後9時まで) 火曜休、1/1～3休、12/25は営業@7台 道案内/電車→阪急神戸線塚口駅から徒歩約2分 車→名神高速道路尼崎ICから県道142号線を経て北へ約3分

尼崎の「a」がマゲの形に!!



## 尼崎の立ち寄り

## 近松メニューもお目当てに!

再興の発起人に。資金面でも多大な貢献をしました」と「近松かたりべ会」の門田典子さん。寺の本堂裏に、「近松座敷」と呼ばれる仕事部屋を設けていたとか。「騒々しい大阪を避けて、晩年の執筆活動をしたと伝えられて

います」。現在も「広濟寺」境内には妻とともに埋葬された墓が残る。人気作家として忙しく働くなか、当時のどかな田園風景だったこの地に、安らぎを求めたのかもしれない。

『曾根崎心中』や『冥土の飛脚』など、義理や人情のもつれを描いた名作を生み出し、(東洋のシエークスピア)とも称される劇作家・近松門左衛門。京都や大阪の人形浄瑠璃や歌舞伎の世界で活躍したイメージが強いが(近松の里)と親しまれているのは尼崎の街だ。どんなゆかりが? 「近松は友人であった僧侶の日昌上人との縁で、当時荒廃していた尼崎の「広濟寺」



## 町を歩けば...

[近松記念館]は約2haの池が美しい市民憩いの場[近松公園]の中にあり、りりしい近松の像が。近くには近松の家紋をモチーフにしたモニュメントがあるなど、近松尽くし! 記念館裏手の[広濟寺]にあるお墓では、命日の11月22日に「大近松祭」が行われ、文楽人形による墓前祭が行われる。

## 江戸文学の香り



代表作『曾根崎心中』のお初と徳兵衛をモチーフにした押し絵は、近隣の有志たちがつくり、「近松記念館」に寄贈したものの素敵!



# 近松門左衛門の



## 近松記念館 | ちかまつきねかん

近松門左衛門の菩提寺[広濟寺]に隣接する記念館。文机や手紙など近松ゆかりの品々や、戯曲にちなんだ資料約100点が展示され、仕事場の佇まいや筆跡に興味津々! 近松の作品世界がぐっと身近に感じられる。事前予約でボランティアガイド[近松かたりべ会]に資料の詳しい説明が受けられ、近松の墓所や公園の案内も。

▷尼崎市久々知1-4-38  
☎06-6491-7555  
午前10時～午後4時(入館は午後3時30分まで) 水第2日曜休、12/29～1/7休 @なし ※正面玄関が閉まっている場合は裏口から入館。近松かたりべ会は1カ月前までに要予約(☎06-6489-6385、無料) 道案内/電車→JR宝塚線塚口駅から南東へ徒歩約15分 車→名神高速道路尼崎ICから県道338号線～県道41号線を経て北西へ約5分



「近松かたりべ会」でガイド歴10年の大ベテラン門田さん。ほか約30人が在籍し、町をガイド。

[広濟寺]に伝わる近松愛用の文机と、直筆の手紙(複製)など、貴重な資料を記念館で展示。寺の裏にあったとされる(近松座敷)のジオラマもあり、執筆活動の様子をイメージできて、興味深い。



もつと！ ゆかりの偉人たち

ゆかりの場所を訪ね、伝説を知ること、兵庫のあの偉人がぐっと身近に。(へ)近所さん)のように親しみを感じて！

# 楠木正成

## 廣嚴寺(楠寺)

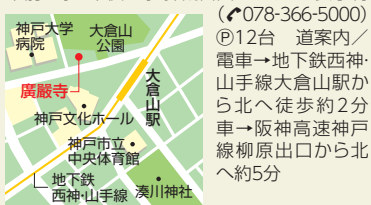
こうごんじ(くすのきでら)

建武の新政の立役者として、南北朝期に活躍した武将・楠木正成。湊川の合戦では、[廣嚴寺]開祖の明極禪師と問答を行って戦いに臨み、その翌日に最期をとげたという。現在の境内には菩提600年を記念して建立された十三重塔や供養塔が。書院では住職お手製のそばが供され、庭園を眺めながら歴史に思いを馳せることができる。

「味の決め手は境内の湧き水です」とご住職。六甲山系の湧水としては非常に珍しい真水で、素材本来の味を引き立てる。特製五膳(竹)1,500円。



▷神戸市中央区楠町7-3-2 ☎078-341-1894  
午前9時～午後5時 拝観自由 ※そばは要予約  
(☎078-366-5000)



## 宗鏡寺 | すきよじ

戦国期に出石で生まれ、富貴栄達を避け、孤高の禅僧として生きた沢庵和尚。(たくあん漬け)の考案者であり、小説や映画ではよく宮本武蔵の剣の師匠として描かれることでも有名だ。14歳で[宗鏡寺]に入り、のちに寺を再興して小さな庵(投淵軒)を結んだ。境内には沢庵手づくりの庭園が残り、復元された庵が和尚が愛した閑寂の時間を伝えている。

右は沢庵作庭とされる県指定文化財(鶴龜の庭)。和尚の夢に出てきた(夢見の鐘)、お手製の(ワビスケ椿)などゆかりの品が多数。

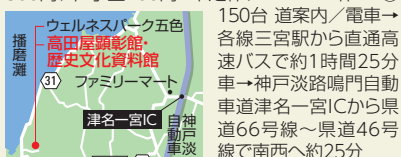
# 沢庵和尚

▷豊岡市出石町東條33 ☎0796-52-2333  
午前8時30分～午後4時30分 庭園拝観料=300円  
12/31～1/2休 ◎20



▷洲本市五色町都志1087 高田屋嘉兵衛公園内  
☎0799-33-0354

午前10時～午後5時 入館料=一般500円、大・高生300円、中・小生200円 不定休、1/22～24休 ◎



# 高田屋嘉兵衛

## 高田屋顕彰館・歴史文化資料館

たかたやけんしょうかん・れきしぶんかしりょうかん

北前船を操り北の地を開拓し、国家紛争の危機にあった「ゴローニン事件」で日露両国を救った江戸後期の偉人。司馬遼太郎作『菜の花の沖』で有名だ。その功績を讃える資料館が嘉兵衛の故郷・五色町に。持ち船(辰悦丸)の2分の1サイズ、大画面スクリーン、言葉の壁を越え対話する(嘉兵衛リコルド像)が。2013年は事件解決後200周年にあたる。

復元・辰悦丸は甲板上がることも! 北前船を操り蝦夷地を開拓した壮大なスケールを感じて。

